

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

## ～読書の秋、おすすめの 1 冊を紹介します！～

是非、中高生に読んでほしい作家 喜多川 泰さん。

一度に喜多川さん本を 3 冊買って、子どもと交換しながら読んだこともあります。

その中から・・・「ソバニルヨ」（幻冬舎）を紹介します。

～勉強が嫌いで、周囲の目ばかりを気にして日々過ごしている中学 1 年生の隼人。

さらに、些細な出来事がきっかけで、仲の良かった友達との関係がもつれ、孤立することになってしまいます。

ある日、自分の部屋に帰ると、そこには見慣れぬ大きな物体が・・・それは、長期間海外出張で不在になる父親が残していった・・・AI ロボット「UG」でした。

「UG」は、隼人に・・・「ボクは・・・ハヤトに「アイ」をツタエルタメニ、キタンダヨ。」といいました。～



ユージー（UG）は、テレビを指して・・・

「テレビの中でも、ミンナヤッテル。楽しければ、他人がキズツイテモ平気。人間のシッパイを笑う。

ミスをした人間たちを追い詰める。ソレを見ている人たちもモットヤレって思ッテル・・・

みんな・・・「アイ」が足りない。

みんな、自分が喜ぶコト、自分が怒りをブツケルトコ、自分が楽しいコト大事。「アイ」がない。

自分だけが大事。だから平気な顔してイラレル。」

「ホントにそうだよ。みんな自分のことしか考えてない！」

隼人は、学校で孤立している怒りをぶつけるように声を荒げた。

「デモ、隼人も同じだったデショ。自分の楽しいノタメナラ、誰かを悲しませるウソをついても平気」

「えっ・・・」

隼人は固まった。

「ビリヤード楽しんだケド。真由美（隼人の母）ニハ『塾』ってウソついた」

「なんで知ってんの？」

「ユージー、ワカル。真由美も隼人がウソついたのワカッテル」

「母さんにバラしたの？」

「ユージー、ナニモ言ってない。真由美 自分でキヅク。塾じゃないコトクライ、誰デモワカル」

隼人は、体が熱くなり変な汗が噴き出すのが分かった。

「ホラ、隼人モ、隼人ノ『タノシイ』が、真由美の『カナシイ』にナッテタけど、平気ダッタ。」

隼人はその言葉を聞いて、怒る気力もなくなった。

これまでの隼人の『楽しい』は誰かの犠牲の上になりたっているものだったのかもしれない。

自分の『楽しい』の陰に隠れて、「いやな思い」をしていた人がいるかもしれない。今の自分のように・・・。

やがて、「UG」は、隼人にとってかけがえのない相棒？家族？弟？兄？親友？父？「ユージー」となり・・・

隼人は、考え方や視点、行動が少しずつ変わっていきます。

しかし、相棒、ユージーと「お別れ」の日がやってきました。

隼人は、ただユージーを見つめて涙を流していた。言葉に詰まった隼人の代わりに、ユージーが話した。

「アリガトウ隼人。ユージーは楽しかった。ホント。隼人に会えて幸せダッタ。」

隼人は首を横に振った。

「俺のほうこそ、ユージーに会えてよかった。もしユージーに会えなかったら、俺弱くて、何からも逃げて、それでも逃げてるなんて気づいていない、カッコ悪い奴のままだった。それに、わからないまま人が傷つくことを平気でしていたと思う。」

ユージーが隼人に伝えた・・・「アイ」って何？隼人の成長のきっかけは？ユージーって？

気になった人、是非読んでみてください。